

長崎県地学会誌

第 42 号

1985

目 次

研究報告

インドネシア皆既日食を観測して……………松本 直弥……1

教材研究

普賢岳外輪山の地形学的考察……………吉富 一……17

日曜地質巡検会記事

北九州市立自然史博物館の見学……………石川 直衛……23

書 評

長浜春夫・松井和典：「早岐地域の地質」……………阪口 和則……25

抄 録

NESA Abstract 046-051 ……………26

長崎県地学会記事

津波見脊椎動物化石層発掘……………表紙 2, 3

昭和58・59年度 日曜地質巡検会……………24

昭和60年3月

長崎県地学会

津波見脊椎動物化石層発掘

長崎県教育委員会においては、自然史資料のうち緊急を必要とする資料の収集を行っているが、昭和59年度の地学系資料の収集には、島原半島の加津佐町津波見海岸の口之津層群に含まれる、シカ類を主とする脊椎動物化石の発掘が計画され、長崎県地学会の協力を依頼してきた。

5月初め頃より、津波見化石層について永年研究を続けている鹿児島大学大塚裕之博士を相談役とし、地学会の中に収集活動の実行委員会を設けて計画を練った。発掘時期を盆すぎの干潮時ということで、8月24日(金)から28日(火)までと決定し、7月14日付で、会員宛に発掘計画の案内と協力依頼の文書を発送し、参加申込みを受けた。その結果、申込み締切日の7月25日までに約40名の参加の申し出があった。

化石発掘開始行事

日時 昭和59年8月24日(金) 13:00~13:30
於 津波見海岸(化石層発掘現場)

総合司会 石川直衛

長崎県地学会主催神事

司式 正会員 岡沢 昭

開始式

開式のことば 副会長 石川直衛

挨拶 長崎県教育長 伊藤昭六(代理)

加津佐町教育長 林田健一

長崎県地学会長 鎌田泰彦

発掘計画説明

鹿児島大学助教授 大塚裕之

閉式のことば 副会長 西村 進

「津波見脊椎動物化石層発掘」

事業の終了報告と御礼

8月24日より28日までの5日間、長崎県教育委員会の主催による「長崎県自然史資料緊急収集活動」の一環として、加津佐町津波見海岸において、「津波見脊椎動物化石層発掘」を計画し

た所、連日の猛暑にかかわらず、延200名を超過する多くの方々が御参加下さいまして、多数の貴重な化石標本を収集することができました。これもひとえに、参加された皆様方の本事業に寄せられた並々ならぬ情熱の賜と、深く感謝致す次第です。

この発掘の作業は、海水に浸った泥岩の、よくしまった岩盤をツルハシで掘り起し、更にハンマーで砕いて化石の発見につとめるもので、衣服はおろか、顔面までも泥まみれになって、黙々と仕事を続けられる姿には、本当に頭の下る思いで一杯でした。さぞかし馴れない力仕事で、殆んどの方が疲労感を後まで残されたものと推察しています。献身的な御協力をして頂き、本当に有難うございました。

今回収集した化石標本は、一部は破損修復のため、鹿児島大学の塚裕之先生に託したものがありますが、大部分は8月28日午後、長崎県文化課立山分室の資料収納室に無事搬入致しました。また、ニッポンチャールの頭骨と角や、アカシゾウの臼歯(破片)などの数点は、県教育委員会文化課に届けましたが、伊藤昭六教育長も早速御覧になって、大変喜ばれたと伺っています。

収集標本の中、植物遺体については、まだ岩石に埋れたままになったものもありますし、微小化石の摘出も必要かと思えます。これらについては、早い機会に本会の会員も協力して処理したいと考えておりますので、今後共よろしくお願い致します。

まずは取りあえず、今夏の化石発掘事業の終了のお知らせと、数々の御協力のお礼を申し上げます。なお、現地では不馴れのため、種々不行き届きの面の多かったことを深くお詫び申し上げます。

皆様方の御健康と御多幸を祈念しつつお礼の言葉と致します。

昭和59年9月5日

長崎県地学会 会長 鎌田 泰彦